



## 地球環境

企業活動における地球環境への負荷の大きさを認識し、「未来につながるグリーンファクトリー」を合言葉に、環境と調和した持続可能な社会の構築に向けた取り組みを推進していきます。

関連するSDGs



### GLOBAL MESSAGE



### 環境マネジメントシステムの継続的な改善に尽力

SEWS社の環境マネジメントシステムのプログラムを統合する責任者です。SEWS社の継続的改善プログラムのため、ISO14001を遵守継続し、企業レベルでの指導を実施しています。

私が誇りに思っている環境目標の一つは、自分たちの設備で材料を再利用することです。ケンタッキー州にあるエドモントン工場では、アルコール蒸留機を導入し、2013年より、計約47,000ポンド(約21,000kg)以上の引火性液体を回収・再生利用してきました。

SEWS社の環境マネジメントシステムと継続的改善プログラムはそれぞれが連携し、従業員が、環境性能と全体的な収益性向上を実現するアイデアを提供することを奨励しています。

米国 | Sumitomo Electric Wiring Systems, Inc. (SEWS)  
法務部 スペシャリストⅢ ウェンディ ブラウダー

## 環境マネジメント

### 環境保全理念

#### 基本理念

住友電装グループは豊かな社会の実現に向けて、環境保全を積極的に配慮した事業活動を展開する。

#### 行動指針

- 製品の企画・開発・設計・工法・生産・物流・使用・廃棄の各段階において、環境保全技術の開発・向上に努め、生態系に及ぼす影響と資源保護に配慮した物づくりを指向する。
- 国・地方公共団体などの環境規制を遵守することはもとより、自主的な規制により環境への負荷の低減に努める。
- 環境監査等により、環境保全計画の達成状況と職務遂行の健全性を確認して、環境管理レベルの維持向上を図る。
- 海外も含め住友電装グループの環境意識向上を図り、地域社会との交流を通じて、環境保全活動を推進する。

#### 環境スローガン

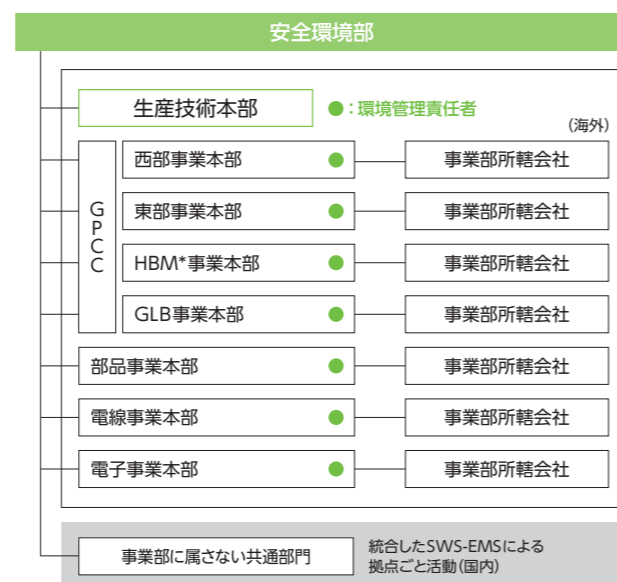
未来へつながるグリーンファクトリー  
Clean Factory For The Future



### 環境マネジメント体制

住友電装グループは2017年度、これまで環境専門部会、海外各社、国内4地区を主軸に行っていた環境マネジメントシステム(EMS)の体制を見直し、事業本部ごとに環境管理責任者を置く事業部主導型の体制に再編成しました。併せて

環境マネジメント体制図



\* HBM: ハイブリッド・モビリティ

ISO14001:2015改訂版への対応を行い、海外拠点も移行が完了しました。2019年度は環境グローバルスタンダードの遵守や浸透拡大・深化をめざし、日英中対応のグローバル標準ハンドブックを作成し、全拠点に配布しました。

今後は環境グローバルスタンダードの遵守状況を点検する環境診断の項目拡大を進めつつ、海外各社と連携を図り、グループとして国際的基準に則った内部監査体制の確立をめざしてまいります。

### 環境監査

当社国内グループの環境マネジメントシステムが、ISO14001の規格要求事項に則って適切に運用維持されているか、環境監査を行っています。2019年度、全社不適合はありませんでした。

### マテリアルバランス(国内)(2019年度)

INPUT	
<b>エネルギー</b>	
購入電力	171 GWh
都市ガス	239 千m <sup>3</sup>
LPG	370 t
A重油	236 kℓ
灯油	265 kℓ
<b>水</b>	
水	655 千m <sup>3</sup>
上水	259 千m <sup>3</sup>
地下水	238 千m <sup>3</sup>
工業用水	159 千m <sup>3</sup>
<b>原材料</b>	
銅、アルミ	29 千t
樹脂類	34 千t
<b>化学物質</b>	
PRTR対象物質	17.8 t



### 法令違反・環境事故の状況

2019年度は、当社グループにおいて、法令違反および環境事故(行政から指導・勧告や罰金を指示されたもの)はありませんでした。引き続き法令遵守の徹底のため、コンプライアンス教育の実施に加えて、各拠点の現地確認を行っています。

### 環境教育

環境経営を実現するためには、従業員一人ひとりの環境意識や環境に対する知識向上が不可欠です。当社グループでは新入社員や他地区からの異動者、内部監査員候補者ら、さまざまな階層に向けた多様な環境教育プログラムを実施しています。

2019年度は中国における環境規制の厳格化を背景に、海外駐在員の環境教育を新たに開始しました。

OUTPUT	
<b>大気</b>	
CO <sub>2</sub> 排出量	82 千t-CO <sub>2</sub>
SF <sub>6</sub> * (CO <sub>2</sub> 換算排出量)	0.02 千t-CO <sub>2</sub>
PRTR 対象物質	1.4 t
<b>排水</b>	
排水量	655 千m <sup>3</sup>
PRTR 対象物質	0.23 t
<b>廃棄</b>	
廃棄物排出量(有価物除く)	2.6 千t
マテリアルリサイクル	1.2 千t
サーマルリサイクル	1.2 千t
埋立+単純焼却	0.3 千t
PRTR対象物質	2.4 t
<b>再資源化量</b>	
有価物(銅・銅合金類含む)	18 千t

\* 六フッ化硫黄

## 住友電装グループ環境行動計画

当社グループは、製品開発から廃棄に至るすべての段階で環境負荷の低減に取り組むため、地域社会とのより良いつながりをグローバルに追求してきました。2018年度からは住友電気工業(株)が実施する「アクションECO-22V」運動に取り組み、事業活動を通じて環境に優しい活動を実施しています。

### 「アクション ECO-22V」運動(2018~2022年度の目標)

「アクションECO-22V」 2018~2022年度：基準年度2017年度		範囲	2019年度			2022年度 目標
			目標	実績	評価	
地球温暖化(CO <sub>2</sub> 削減)防止	CO <sub>2</sub> 排出量削減	グローバル	0%減	15.9%減	●	5%減 <sup>*2</sup>
	省エネ原単位削減 <sup>*1</sup>	グローバル	2%減	12.0%減	●	5%減
省資源、リサイクルの推進	廃棄物原単位削減 <sup>*1</sup>	グローバル	2%減	6.5%減	●	5%減
	水使用量原単位削減 <sup>*1</sup>	グローバル	2%減	11.5%減	●	5%減
環境配慮製品拡大	環境配慮型製品売上比率向上	国内	84%	83%	△	90%
法令違反・環境事故ゼロ		グローバル	0件	0件	●	0件

●：目標達成 △：目標未達(前年度より改善) ×：目標未達(前年度より悪化)  
 ※1 生産量原単位  
 ※2 2022年度目標値を見直しました

## 地球温暖化防止

### 温室効果ガス排出量(グローバル)

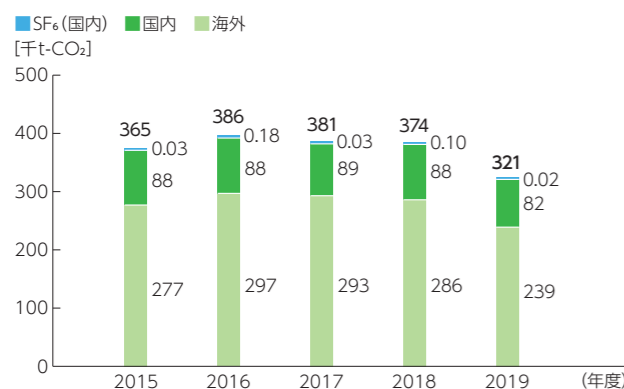
2019年度目標 2017年度比 **0%減**  
 2019年度実績 2017年度比 **15.9%減**

当社グループでは、地球温暖化防止対策を環境分野における重要な課題の一つとしてとらえ、クリーンファクトリーの実現に向け、グループ一丸となって取り組みを進めています。

2019年度は、グループ全体における温室効果ガス排出量を2017年度比で増加させない目標を立てましたが、321千トンと15.9%減となり、目標を達成しました。

2019年度は、排出量削減の施策として、一部地域で再エネ電力の購入を進めました。2020年度は、グループ全体で再エネ電力購入の検討を始めていきます。

### 温室効果ガス排出量の推移(グローバル)



※ 精度向上のため、過年度の値を遡及修正しています。

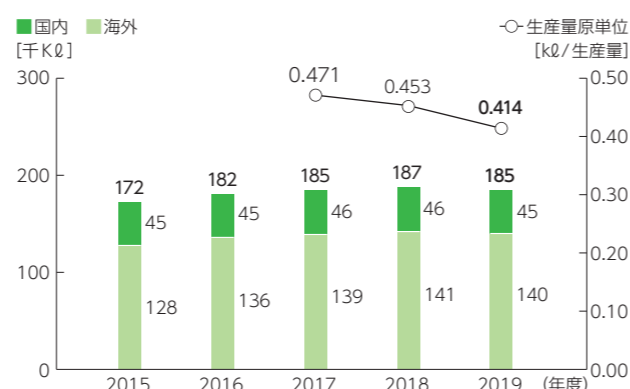
### 省エネによるエネルギー原単位低減(グローバル)

2019年度目標 2017年度比 **2%減** (生産量原単位)  
 2019年度実績 2017年度比 **12.0%減** (生産量原単位)

省エネによるエネルギー原単位低減は太陽光パネルの設置や設備更新などを行ったこともあり、2017年度生産量原単位比で12%の削減となり、目標を達成しました。

2018年度は、各拠点で省エネの年間計画をたてたうえで月ごとの進捗を本社に報告する仕組みをつくりました。報告を受けた数値を集計・フィードバックし、3カ月に1度、前同期比での進捗状況を「見える化」する「ワンランクアップ活動」を通じて、省エネに対する関心を向上・浸透させました。

### 省エネによるエネルギー使用量の推移(グローバル)



※ 精度向上のため、過年度の値を遡及修正しています。

省エネ・廃棄物削減の両分野で優れた事例を「改善事例集」として改善方法の動画とあわせて社内イントラに掲載、情報共有を図っています。動画では、工場内でのエア漏れによるエネルギー浪費を防ぐための点検方法など、効果的な取り組みを多言語で紹介しています。

また、現場レベルでの省エネ推進のため、環境インストラクターの育成を行いました。2019年度には海外含めて延べ175人が省エネ計画に基づき照明、空調、コンデンサなどの設備のチェック方法を学びました。今後は身につけた知識を活かして、各拠点で環境指導を行っていきます。

### バリューチェーンにおける取り組み

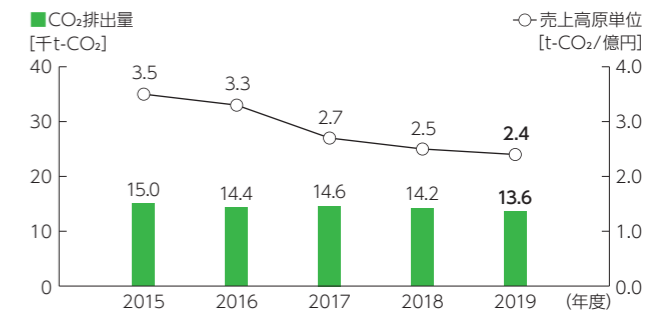
#### グリーン調達推進

当社ではお取引先にグリーン調達ガイドラインを配布し、事業活動を通じた環境保全に向けた取り組みを推進しています。ガイドライン同意書の2019年度における回収率は国内85%、海外66%でした。また、業務上使用する文具・事務用品および事務機器のグリーン購入に関する規程を定め、エコマーク、エネルギースターマーク商品などの優先的購入を進めています。加えて、カーメーカーの環境方針を理解し、環境活動への協力にも積極的に取り組んでいます。

### 物流CO<sub>2</sub>の原単位低減(国内)

国内物流CO<sub>2</sub>排出量は、2018年度比で4.2%減となり、輸送における排出削減活動の効果が表れています。また、距離短縮や混載輸送などに取り組むとともに、2017年度に導入したフルトレーラーやフェリー化といったモーダルシフト\*に引き続き取り組むことで、CO<sub>2</sub>排出量を低減していきます。

### 物流CO<sub>2</sub>の原単位の推移(国内)



#### 用語解説

\*モーダルシフト：トラックなどの自動車で行われている貨物輸送を、環境負荷の小さい鉄道や船舶の利用へと転換すること。

## VOICE

### 太陽光発電の技術活用による省エネ・CO<sub>2</sub>排出量削減をめざして

2019年7月に3MW太陽光併合発電システムを導入しました。月平均発電量の300MWhは全社電力使用量の約40%にのびります。これは、年間あたり標準炭素1,113トンおよびCO<sub>2</sub>排出量2,775トンの削減、植樹15万本に相当します。太陽光パネルが直射日光を遮るため、エアコンの使用率や電力量も低減しました。また、太陽光発電の模型やリアルタイムデータを掲示し、全来訪者および従業員にプロジェクトの効果への理解と、環境意識の醸成を図っています。

今後も住友電装グループの一員として、新たなプロジェクトの推進や方法の探求、自然エネルギーの合理的な利用を図り、環境目標を達成するように、絶え間なく取り組んでいきます。



蘇州住電装有限公司(SDM-S) 総務人事部長  
張 清

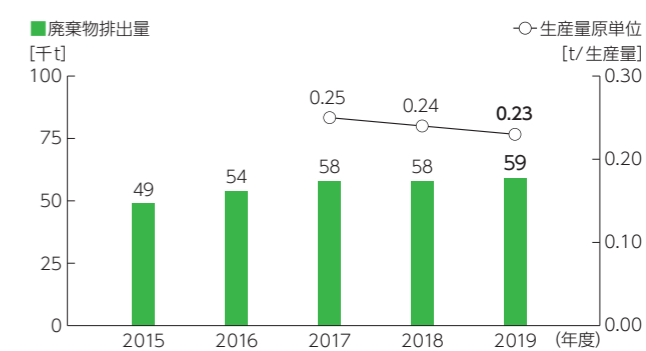
## 資源循環/環境負荷物質の管理・削減

### 廃棄物の削減(グローバル)

2019年度目標 2017年度比 **2%減** (生産量原単位)  
 2019年度実績 2017年度比 **6.5%減** (生産量原単位)

2019年度は、廃棄物削減計画の策定による進捗管理や、環境改善事例集の発行などを通じて情報展開を行なった結果、原単位低減率が2017年度比6.5%減となりました。事例集で紹介した優良事例を参照し、各社の次年度計画に反映していきます。

### 廃棄物排出量の推移(グローバル)



※ 精度向上のため、過年度の値を遡及修正しています。

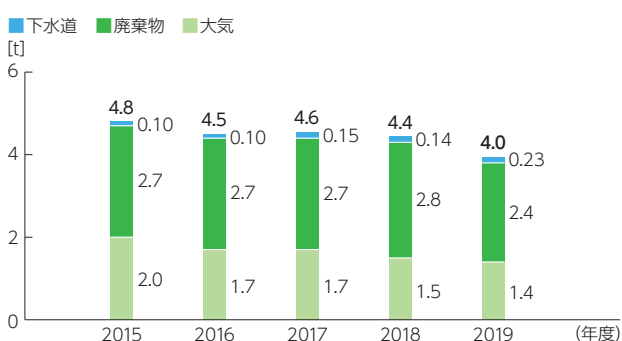


## 環境負荷物質の管理・排出量削減

環境負荷物質の管理向上を意図して、住友電工グループ内の化学物質管理システムの導入を進めています。国内グループ会社のPRTR\*物質の排出は2018年度対比で9.1%削減しました。届出対象の物質はアンチモンおよびその化合物、ニッケル化合物でした。

また、当社グループでは「PCB特別措置法」に沿って、PCB汚染物の保管・届出を実施し、順次廃棄を進めています。

### PRTRの推移(国内)



## 水資源の保全(グローバル)

2019年度目標 2017年度比 **2%** 減 (水使用量原単位)

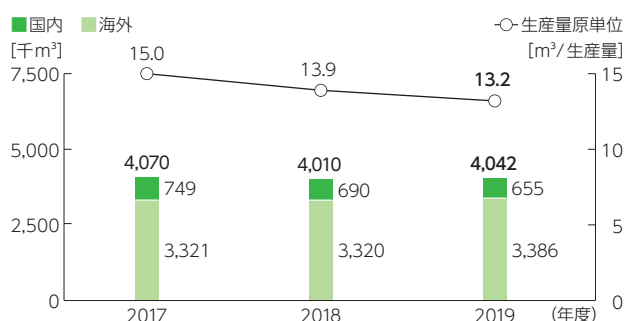
2019年度実績 2017年度比 **11.5%** 減 (水使用量原単位)

当社グループは水資源が重要な自然資本であることを認識し、各拠点で幅広い取り組みを行っています。月1回の水道管の点検実施、トイレ排水を敷地内の草花に使用するなど、水使用量の削減に積極的に取り組んでいます。各社の

取り組みにより2019年度の水使用量原単位は2017年度比11.5%減となりました。

また、全グループ会社を対象にした水リスクの評価を実施しています。評価を踏まえ、将来の事業継続に及ぼす水リスクの把握に取り組んでいます。

### 水使用量と削減率(グローバル)



\* 精度向上のため、過年度の値を遡及修正しています。

## 生物多様性の保全

当社グループでは環境保全理念に基づき、グローバルで生物多様性の保全に取り組んでいます。

SUMI PHILIPPINES WIRING SYSTEMS CORPORATION (以下SPWS) では環境団体のENRO Bataanと共同し、マングローブの植林を通じて、海洋保護の重要性を伝える活動を行うとともに、生態系の保全に貢献しています。

### 用語解説

\*PRTR：有害性のある多種多様な化学物質がどのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握・集計し、公表する仕組み。

## 環境配慮型製品

当社グループは、製品を通して地球環境保全に貢献するため、2005年5月にISO14021に準拠した基準に基づく「エコシンボルマーク認定制度(環境配慮型製品認定制度)」を発足させました。認定は、全社環境管理責任者を委員長とする環境配慮型製品認定委員会が行っており、2019年度は新たに6件を認定し、累計で80件となりました。環境配慮型製品の売上比率84%以上という2019年度目標に対して83%で未達でした。

また、新製品の開発や既存製品の大幅な設計変更を行う際、製品環境アセスメントを実施し、「エコマインド製品」として登録しており、登録率は100%です。引き続き、環境配慮型製品売上比率、エコマインド製品の登録率向上をめざし、製品を通じて環境保全に注力していきます。

### 2019年度 新規認定環境配慮型製品の一部

